

季節によって家庭で使うエネルギーはどれくらい違うのかな？

＜推計の方法＞

○総務省がまとめている家計調査から、2009年度さいたま市の1世帯あたりの月別の光熱費を抽出し、各種データを元に設定した電力、都市ガス、プロパンガス、灯油の単価からエネルギー使用量を推計しました。

※簡易的な手法による推計であり、他の統計等と数値が一致するものではありません。なお、「深夜電力」と電力、ガス、灯油以外の光熱費については、支出が少ないこと、単価設定が困難なことから、推計から外しています。また、統計データの関係で、二人以上の世帯を対象としています。

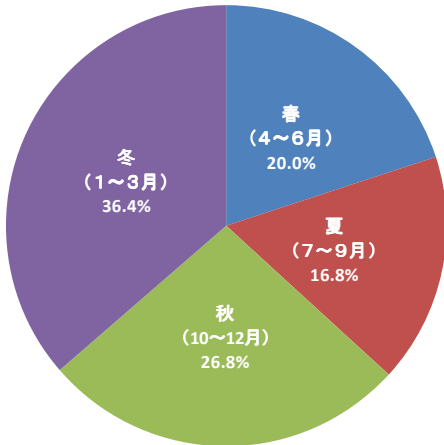
＜結論＞

- エネルギー使用量が最も多いのは**“冬”**！最も少ない**“夏”**の約**2倍！！**
- 暖房や給湯**に利用される割合が高いと考えられるエネルギー（ガス、灯油）の変動が大きくなっており、**冬季の利用増の影響が大きい**と考えられます。

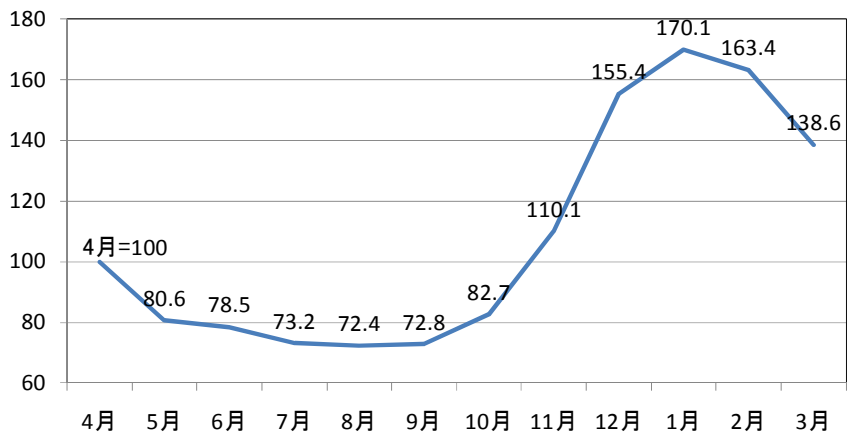
＜トピック1：季節によるエネルギー使用の変化＞

○エネルギー使用量を季節ごとに区切って見ると、最も多いのが**冬で年間の36.4%**を占め、秋の26.8%、“春”の20.0%となっている。**夏は16.8%**で、冬の半分以下。（左）

○月別の使用量は、春から夏にかけて少なくなり、秋、冬になるにつれて多くなっていく。**もっとも使用量が少ないのが8月、多いのが1月で、8月の約2.3倍**となっている。（右）



季節別エネルギー消費量の構成



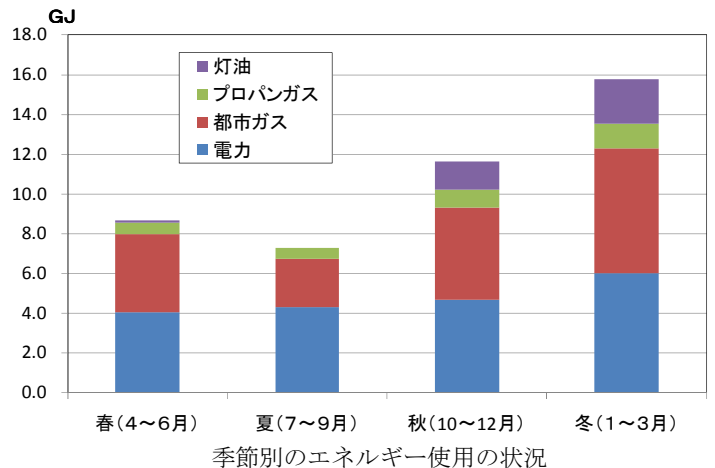
月別エネルギー使用量の推移 (4月の使用量=100とした場合の指数)

＜トピック2：エネルギー種別ごとの推移＞

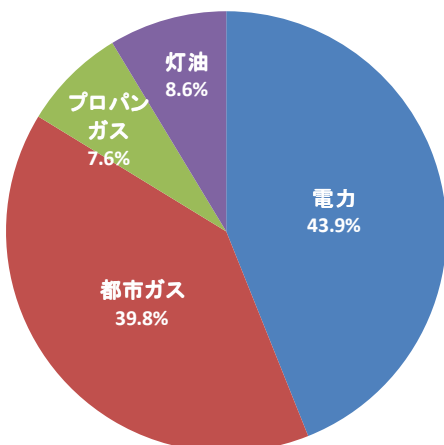
○使用するエネルギーは、電力が43.9%と最も多く、以下、都市ガスが39.8%、灯油8.6%、プロパンガス7.6%となっている。**電力と都市ガスで全体の約8割**を占めている。（下）

○季節別にみると、エネルギーの使用量がもっとも少ない夏は、電力が約6割を占めるが、その他の季節では4割前後。また、灯油は秋・冬の使用量が多くなり、冬には14.2%を占める。**暖房・給湯のためのエネルギー使用量の増加が、全体に大きな影響を与えている**ことが考えられる。（右上）

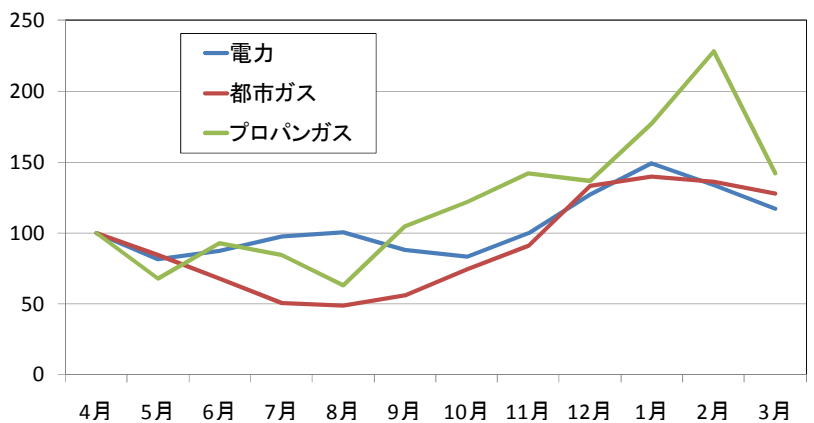
○エネルギーの種類ごとに使用量の推移を見ると、**灯油、プロパンガス、都市ガスは年間を通じて使用量の変化が大きい**。これらのエネルギーは、暖房・給湯に使用される割合が高いことがうかがえる。（右下）



季節別のエネルギー使用の状況



年間の使用エネルギーの構成



月別のエネルギーごとの使用量の推移 (それぞれ4月の使用量=100とした場合の指数)
(※灯油は、変化の幅が非常に大きいため割愛)